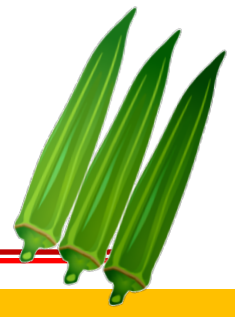
サンビオティック農業で大豊作！

オクラ　栽培基準



◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備　考
3～4月	育苗期（育苗の場合）	育苗培土（市販） 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合の培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和します。上記混和後2週間程度おいて良くなじんでから使用します。
		菌力アップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに潅水 （4回以上）	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌力アップは500倍希釈と薄めに行います。
		コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布 （7～10日おき）	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca2000倍を加用します。
3～4月	本圃準備 （元肥）	五穀堆肥 有機百倍 鈴成	50袋 5袋 10袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pHを6.5程度に調整するため、石灰、苦土などを施用しておきます。苦土入りのカキ殻石灰などがお勧めです。 その後、2～3トン程度バーク堆肥・牛糞堆肥などの堆肥を施用します。五穀堆肥の場合は50袋です。豚糞、鶏糞の場合は、500kg以下とします。堆肥施用後混和し、1か月置きます。 薬剤土壌消毒や太陽熱消毒、還元消毒をした後は微生物が減っています。消毒後に必ず菌力アップ5～10リットルを潅水します。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。 その他、苦土や加里などの不足は、市販肥料で補います。（硫マグ、硫酸加里）
4～5月	播種、または定植	菌力アップ	200倍希釈	潅水　7日おき	播種時は、菌力アップ300倍駅に一晩浸漬して播種すると良い。 露地に定植の場合は、必ず支柱を立てて、苗を固定し、風で揺さぶられないようにすること。活着までは、こまめに菌力アップ200倍を手潅水する。
5～6月	生長促進 生殖生長促進	菌力アップ コーソゴールド	5リットル 500倍希釈	潅水　7日おき または 葉面散布　随時	菌力アップで発根促進、土壌病害の抑制を図り、順調な初期生育を促します。水量は、500L～1トン程度です。 コーソゴールドで花芽分化を促進しますが、元肥が効きすぎて樹勢が強すぎる場合は、本気Ca2000倍希釈を混用して、葉面散布を行います。葉面散布は、農薬との混用はOKです。
6月～ 収穫期	樹勢維持 収量アップ	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	潅水　7日おき	収穫が始まったら、樹勢を維持するため糖力アップを潅水します。あまり樹勢が強すぎる場合は、省略します。 また、ネコブセンチュウ被害に対しての抵抗力アップにも、菌力アップと糖力アップの併用がお勧めです。
	追肥	有機百倍 硫酸カリ	2袋（40kg） 4kg	土壌散布 4回程度	潅水チューブ敷設の場合は、水が届く場所に追肥します。 1段目の開花期に1回目の追肥を行い、その後は2～3週間おきに追肥を行います。 切り戻す場合は、その1週間前に追肥しておきます。
	生殖生長促進、品質向上、病害虫の対応	コーソゴールド 本気Ca（マジカル）	500倍希釈 2000倍希釈	7日おきに 葉面散布 （月2～3回）	発酵リン酸とキレートカルシウムを吸収し、花落ちの防止、肥大、食味の向上、病害虫対策に効果的です。 農薬との混用はOKです。病害虫が多い時、窒素過多の時は、純正木酢液500倍を加用します。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	潅水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに潅水し、翌日菌力アップ10L（50倍希釈）で潅水する。3日後、再度菌力アップ10L（50倍希釈）を潅水する。

※糖力アップは、点滴潅水、ドリップ潅水では詰まりますので使用をお控えください。
※暖地の露地栽培体系のモデルです。地域、作型によって、時期が異りますので、生育ステージで判断してください。
※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。
※品種や時期、土壌条件等によって、施肥量は加減してください。